

エントランス右手の小さな階段を上がると、歴史と伝統を感じさせる重厚なコンシェルジュデスクがある



「リッツ・パリの華」、ロイヤルブルーのカーペットが映える絢爛豪華な回廊。正面に見えるメインダイニング「L'Espadon」まで続く



コンシェルジュデスクの前に華麗な螺旋階段があり、その横壁面にセザール・リッツのレリーフ「CESAR RITZ 1850-1918」が誇らしげにはめ込まれている



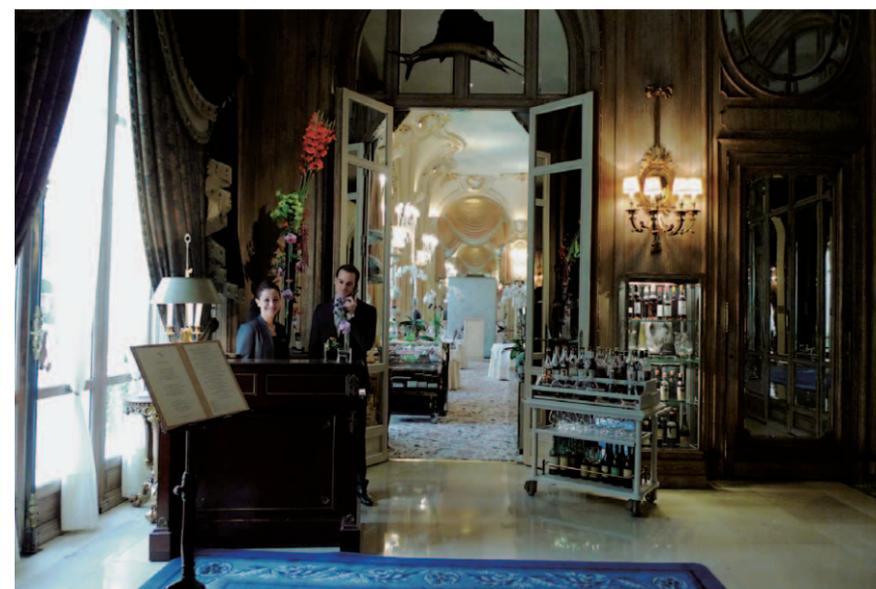
筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健機代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel

リッツ パリ Ritz Paris

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。今回は前回(3月9日号)に引き続き、リッツ パリをご紹介します。前回はホテル外観と客室部分を中心に紹介したので、今回はレストランやスパなどそのほかのスペースにフォーカスしていきたい。

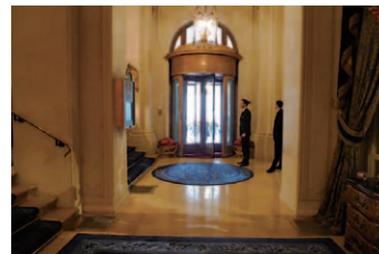
※本連載は毎月2・4週号掲載



ミシュラン2ツ星レストラン「レスパドン」[L'Espadon]の正面エントランス。セザールの息子シャルルは最大の釣りマニアで、「メカジキ」という意味の名称を自分のレストランに与え1956年に創業した。エントランス頭上には大きなメカジキのレプリカが飾られている



ゴージャスなレストラン内部。シェフのミシェル・ロット氏は2001年より総料理長を務め、M.O.F.の正統派フランス料理に現代的独創性を加味した彼の料理は高く評価され、09年にミシュラン2ツ星を獲得している



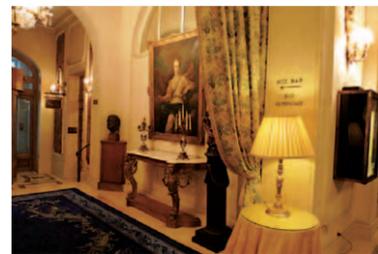
ホテルの正面エントランスとしてはやや狭いが、正統派の凛とした緊張感が漂う



カンボン通りまで続く豪華なショッピングアーケード。名だたるブランド品がそろい、思わず時間を費やしてしまう



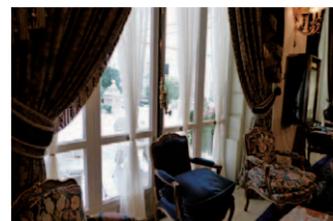
「Ritz Health Club & Spa」のレセプションデスク。1460㎡の広大な施設面積を持ち、パリ随一の規模と内容を誇る



「Ritz Bar」と「Bar Hemingway」に行く途中にある、豪華な絵画が印象的なラウンジ風のスペース



1988年地下に新設した大規模なスイミングプール。古代ローマ風呂をイメージしてデザインされ、天井、壁面には見事なフレスコ画で装飾されている。正面に見える「Pool Bar」では飲み物や軽食をゆったりと楽しめる



ロイヤルブルーのカーペットが美しい回廊には、ゆったりとしたイスが用意されている



回廊の脇には豪華なシャンデリアが煌めくラウンジがある。レセプションデスクの前は狭くスペースがないため、ここがロビーラウンジ的な役割をしている

重厚な歴史的建造物が整然と居並ぶパリ・ヴァンドーム広場。アーチ型のファサードが連続した建物1階部分は華やかなショーウィンドーになっており、ショーメやブシュロンなどの超高級宝飾店が軒を連ねる。パリで最もゴージャスな広場であるヴァンドームの名を、一層高めているのがリッツ・パリの存在であろう。また、ミシュラン2ツ星レストラン「レスパドン」[L'Espadon]を目当てに訪れる人も少なくない。

レストランの名前としては風変りな「L'Espadon」という名称は、魚の「メカジキ」という意味である。セザールの後を継いだ息子シャルル・リッツはプロ級の釣りファンで、1956年にこの名を付けてレストランを創業した。釣り気狂いともいわれるシャルルは多くの釣り関係の本を出版し、ホテル王の息子というより世界的な釣りマニアとして知られている。レストラン正面入り口の頭上には大きなメカジキのレプリカが飾られている。シェフのミシェル・ロット氏は2001年より総料理長を務め、M.O.F.の正統派フランス料理の流れをくみながら、現代的独創性を組み合わせた彼の料理は高く評価され、09年にミシュラン2ツ星を獲得している。またロット氏は大の日本通で、帝国ホテルのリッツウィークに毎年招かれており、今年も1月にガラディナーを開いている。

リッツ・パリの建物は間口こそ狭いが、カンボン通りまで続く奥行きがある。回転扉の先は「L'Espadon」へと延びる絢爛豪華な回廊が続いている。この回廊はリッツ・パリの華とも言える部分でロイヤルブルーのカーペットが美しく映え、左手にアフタヌーンティーの「The Bar Vendome」、右手にシャンデリアが眩いロビーラウンジがある。エントランスのすぐ右手にコンシェルジュデスクがあり、その前には壁面にセザール・リッツのレリーフが誇らしげにはめ込まれている。1979年より9年の歳月をかけた大改修を施したが、特に力を入れた「Ritz Health Club & Spa」はパリ随一の内容を誇り、そのとき新設した地下プールは規模が大きく古代ローマ風呂をイメージし、天井・壁面は見事なフレスコ画で飾られている。

リッツ・パリは54のスイートを含む全159室のゲストルームを有し、ヴァンドーム広場側の客室はすべて豪華なスイートタイプになっている。スイート滞在のゲストは各国からのVIPが多いということで、重厚な二重窓はすべて防弾ガラスになっている。広場側から予想される発砲のテロに常時備えている訳だ。部屋はルイ14-16世様式の家具とインテリアに整えられていて、浴室には独自の白鳥型の蛇口や淡いローズピーチ色のタオルとバスローブが備えられている。この色は女性の顔を白のタオルよりも引き立てて見せる効果があるといわれる。

ヘミングウェイ、ココ・シャネル、故ダイアナ妃、リッツを彩る壮大な伝説は枚挙にいとまがない。大改装後の2014年秋に生まれ変わって再出発する、「新星リッツ・パリ」に大いに期待したい。